

稲作だより

第3号 育苗・圃場準備編

令和7年4月18日

最上総合支庁農業技術普及課 ☎0233-29-1333

4月に入り曇天が続いていますが…

4/19～4/25 気温は高い

4/26～5/2 気温はやや高い見込み（気象庁 4/17 発表）。

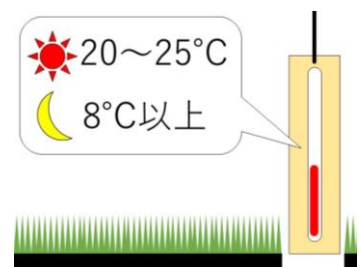
気温・日照の変化に注意して温度管理を！

<育苗後期 ～硬化期のポイント～>

◎温度管理 ～ハウスの温度はこまめに確認を～

硬化期の育苗適温は、昼間 20～25℃、夜間 8℃以上
苗の近くに設置した温度計で測定しましょう。

日中の**高温時**は、換気により温度管理を行います。



徒長防止のため、苗の過保護は厳禁！

田植えの約 1 週間前からは、霜の心配がない限り、昼夜ともハウスを開放して苗を外気に慣らしましょう。

◎水管理 ～かん水は午前中に 1 回が基本～

かん水の基本は十分な水量を午前中に 1 回

低温時や夕方のかん水は、床土温度の低下、過湿・カビの原因になるため避けましょう。

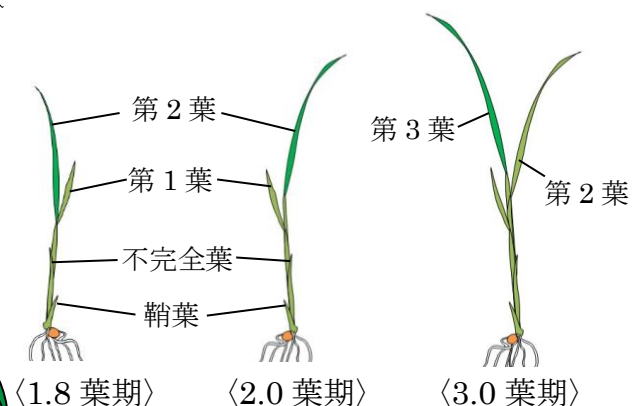
換気の風が直接当たると培土が乾く原因になります。板などで風よけを作りましょう。

◎追肥 ～苗の生育（葉齢）を確認し適期に追肥を～

追肥は 1 回につき 1 箱当り窒素成分で 1g が目安

苗の種類 (移植時葉齢)	追肥時期
稚苗 (2.2～2.5葉)	1.8葉期
中苗 (3.2～3.5葉)	1回目：2.0葉期 2回目：3.0葉期
高密度播種苗 (2.0葉)	移植の3日前

※床土に緩効性肥料(育苗一発肥料など)を使用した場合は、追肥の必要はありません。



令和5年度の試験研究成果

「はえぬき」の高密度播種苗移植栽培における育苗期追肥の施用時期
をご覧ください。



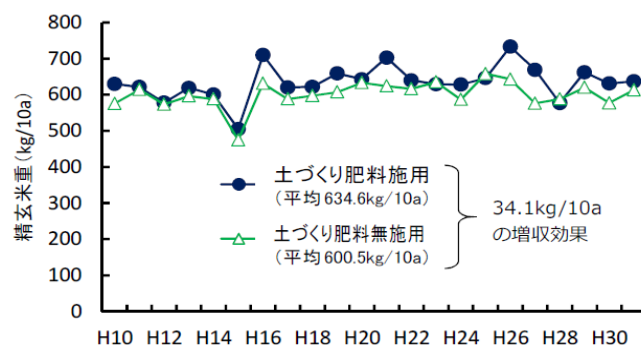
<本田準備 ～土づくり・耕起・基肥～>

◎積極的な土づくり ～気候変動に強い米づくり～

土づくり肥料の積極的な施用を！

近年、高温や長期間の降雨、日照不足など、**気候変動**が大きい年が続いています。

土づくり肥料の**継続的な施用**により、**収量が安定**しやすくなります（右図）。

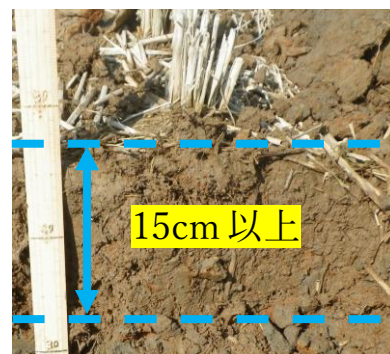


◎耕起 ～適切な耕起深確保で根域確保～ 図 土づくり肥料の連用の効果（農総研）

耕起深さの目安は **15cm 以上**

作土層が浅いと、肥効の持続性が短く、根張りも浅く、根の機能低下も早まります。

耕起作業は作業速度が速いほど耕起深は浅くなりやすいので「**ゆっくり深く**」を意識して行いましょう。



◎基肥施用 ～品種と地力に合わせた適正施用を～

下表の地力・品種別基肥量を目安に、**地力に応じた基肥**を行いましょう

初期生育を確保するためには、側条施肥や耕起後の施肥が有効です。

側条施肥は肥料の利用効率が高いため、2～3 割減らした量が目安です。

堆肥を施用した圃場は施用量に応じて減肥を行いましょう。

全量基肥栽培（一発肥料）の場合は、品種ごとの基肥基準量＋穂肥基準量の合計を超えないように注意しましょう。

<地力・品種別の基肥量目安>

（単位：窒素成分 kg/10a）

	つゆ姫	雪若丸	はえぬき	ひとめぼれ	あきたこまち	ヒメノモチ
地力高	3.0	4.0	4.0～5.0	4.0	5.0	5.0
地力中	4.0	5.0	5.0～6.0	4.5～5.0		
地力低	4.0～5.0	5.0～6.0				

農作業安全 ～春季農作業事故防止運動強化期間（4月1日～6月10日）～

危険個所をあらかじめ点検し、トラクターの転落・転倒に注意しましょう。

点検整備は必ずエンジンを止めてから。ちょっとした油断が命取り！

公道ではブレーキを連結し、低速車マークをつけて運転しましょう。

登録者
増加中

LINE 公式アカウント「最上ベスト稲作」
登録者募集中（無料）

最上地域の水稻に関する技術情報や、
研修会の案内などがスマホで受け取れます。



登録用
QR